

男女のよりよいパートナーシップを

ゆうCan

杉並区立男女平等推進センター情報誌

2021年
65号

男女共同参画に関する意識と生活実態調査結果(速報値)をお知らせします

杉並区では、杉並区男女共同参画行動計画の改定に向け、今後の取組を検討する上での貴重な基礎資料とするため、区民向け及び区内事業所向けの2種類のアンケート調査を実施しました。

今号では、区民向けの調査結果(速報値)の一部をご紹介します。

※今回の調査報告書は、11月下旬頃に区公式ホームページで公開する予定です。

区民向け調査 概要	
調査対象	区内在住の18歳以上の区民
配布数	4,000件
調査方法	配布:郵送 回答:郵送またはWEB
調査期間	令和3年6月16日～6月30日
回収状況	1,484件(回答率37.1%)

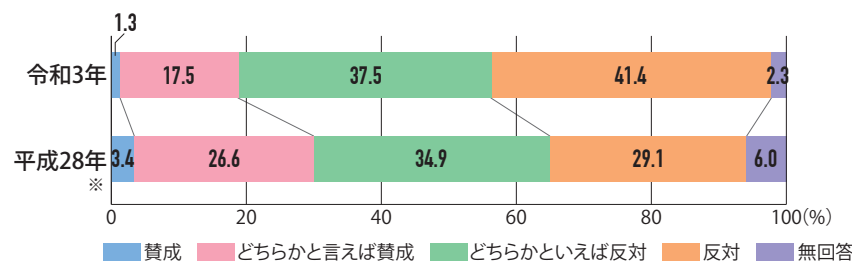


男女平等意識

Q1 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか

「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担意識の考え方について、今回の調査では「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した区民が78.9%となり、前回調査※の64%から14.9%増加しました。

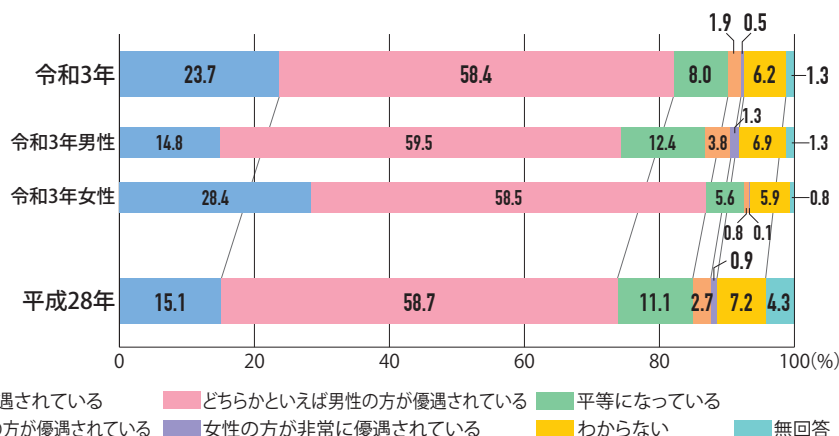
一方で「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合が18.8%と前回調査より11.2%減少しています。



※平成28年度男女共同参画に関する意識と生活実態調査(調査期間:平成28年10月3日～25日)

Q2 今の日本では、男性と女性が平等になっていると思いますか <社会全体で見た場合>

「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人の割合は、82.1%で前回調査より8.3%増加しました。一方「平等」と答えた人の割合は前回調査の11.1%から8.0%に減少しています。また「男性の方が非常に優遇されている」と答えた割合は、男性より女性の方が高い結果となりました。



男女平等推進センターからのお知らせ

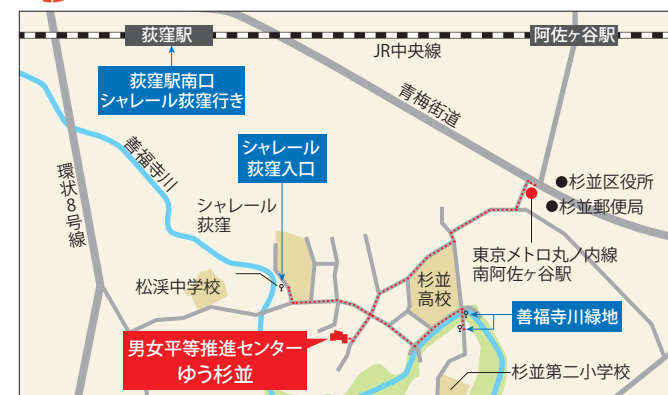
～令和3年度 男女平等推進センター啓発講座を紹介します～

講座名 企画・運営団体	内容・講師	日 時	会 場
個性を伸ばすティーチング コミュニケーション講座 <入門編> NPO法人親子コミュニケーションラボ 今年度の講座は終了し延べ36名が受講しました	人を育てるコミュニケーションー「教える」とは? 講師:東京大学名誉教授 汐見稔幸	7月15日(木) 午前10時～正午 終了	高井戸地域 区民センター
	やる気を育てる「教える」コミュニケーションのコツ ～実践版 講師:親子コミュニケーションアドバイザー 天野ひかり	9月16日(木) 午前10時～正午 終了	
ジェンダー・バイアスを 知る・語る・問い直す creo(くれお)	さよなら、ジェンダー・バイアス 講師:恋バナ収集ユニット「桃山商事」代表 清田隆之	12月5日(日) 午前10時～正午	産業商工会館
	ママ、パパ、café ～我が家のジェンダー・バイアスを再点検 講師:教育情報誌「なみすく」編集長 赤池紀子	12月19日(日) 午前10時～正午	ウェルファーム 杉並
社会とジェンダー ～すべての人が輝くために～ 杉並女性団体連絡会	未来の社会を探る ～男女共同参画がめざす社会像～ 講師:群馬県立女子大学教授 佐々木尚毅	10月30日(土) 午後1時30分～4時	産業商工会館
	社会を担う人間の心と体 ～包括性教育のススメ～ 講師:アトラスレディースクリニック院長 塚田訓子	11月13日(土) 午後1時30分～4時	阿佐谷地域 区民センター
男性の家庭進出 ～コロナ禍で変わる? 男の育休・家事育児分担～ みらい子育て全国ネットワーク	コロナ禍でも両親学級/父親学級だけは届けたい 講師:NPO法人育児サポートdouce.理事長 難波直子	10月31日(日) 午前10時～正午	高井戸地域 区民センター
	コロナ禍でどうなった?男女の家事育児分担 講師:両立支援コンサルタント 吉村満実子 みらい子育て全国ネットワーク副代表 井上竜太	11月14日(日) 午前10時～正午	
女性がキャリアと育児を 両立できる家庭づくり NPO法人リトルワンズ	○自分らしいライフスタイルとキャリアの設計 ○パートナー、地域、子どもとのコミュニケーション 講師:マザーズコーチングスクール認定トレーナー 白崎あゆみ	9月4日(土) 午後1時～3時 終了	ウェルファーム 杉並
	両日同じ内容です	1月8日(土) 午後1時～3時	産業商工会館

※講座に関するお問い合わせは、男女共同・犯罪被害者支援係(電話:5307-0347)へ。申込、実施が終了している講座もあります。



ゆう杉並 杉並区立男女平等推進センター



- 関東バス 荻窪駅南口発
シャレール荻窪行→「シャレール荻窪入口」下車→徒歩5分
- 杉並区南北バス「すぎ丸」けやき路線
JR阿佐ヶ谷駅→井の頭線浜田山駅 「善福寺川緑地」下車→徒歩10分
- 東京メトロ丸ノ内線 「南阿佐ヶ谷駅」下車 徒歩15分
※駐車場はありません。

杉並区立男女平等推進センター情報誌「ゆうCan」第65号 令和3年10月 発行:男女平等推進センター
【ご意見・問合せ先】 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 杉並区 区民生活部管理課 男女共同・犯罪被害者支援係 TEL: (03) 5307-0326(直)

■開館時間
9:00～17:00

■休館日
月曜日(祝休日の場合は翌日)
12月28日から1月4日まで

■住所
〒167-0051 杉並区荻窪一丁目56番3号 TEL.03-3393-4410



杉並区公式ホームページでは過去に発行した情報誌「ゆうCan」をご覧ください。

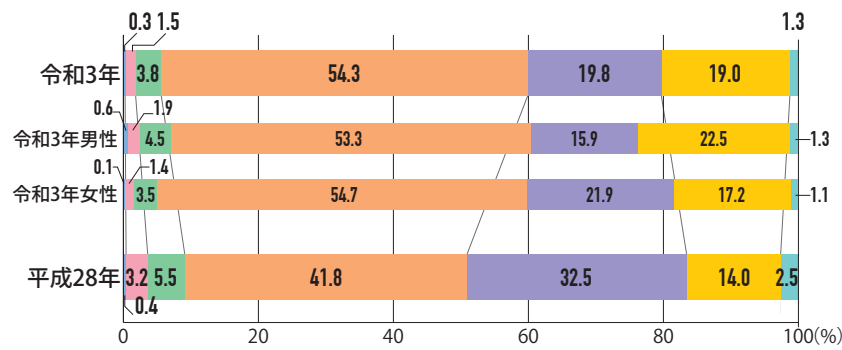


こちらから
ご参照ください↑

女性の就労状況

Q6 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うものはどれですか

「子どもができてからもずっと職業を続ける方がよい」が半数以上まで増加し、その分「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が減少しました。男女別では男女とも「子どもができてからもずっと職業を続けるほうがよい」が多く、女性は「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が男性よりも多く21.9%となっています。



女性が長く働き続けるために必要なこととして「保育所や学童クラブなど子どもを預けられる環境の整備」は前回調査と同様に最も多い結果となりましたが、「男性の家事の参加への理解・意識改革」が約2割増加しました。



女性が長く働き続けるために必要なこと

順位	回答	%	前回順位と%
1	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	79.0%	→ 1位 82.4%
2	男性の家事の参加への理解・意識改革	74.3%	↑ 5位 55.4%
3	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	68.1%	↓ 2位 66.0%
4	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	67.3%	↓ 3位 62.7%

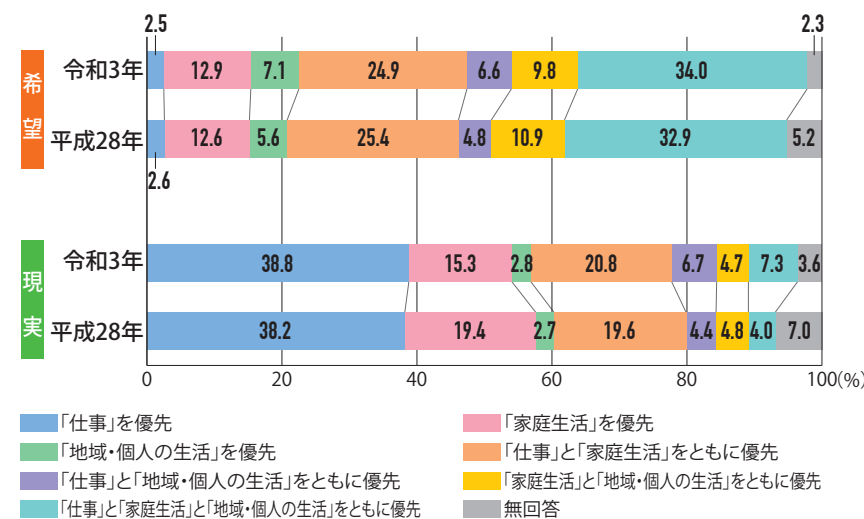
■ 女性に職業をもたない方がよい
■ 結婚するまでは職業をもつ方がよい
■ 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
■ 子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい
■ 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
■ その他
■ 無回答



ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

Q7 生活の中での仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度について、あなたの希望と現実に近いものをお答えください

仕事や家庭生活等の優先度については、前回調査とほぼ同様の結果でした。また、希望としては「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が34.0%と最も多くなっていますが、現実にできている人は7.3%と1割に満たず、「仕事」を優先」が最も多くなっています。



男女共同参画行動計画の改定について

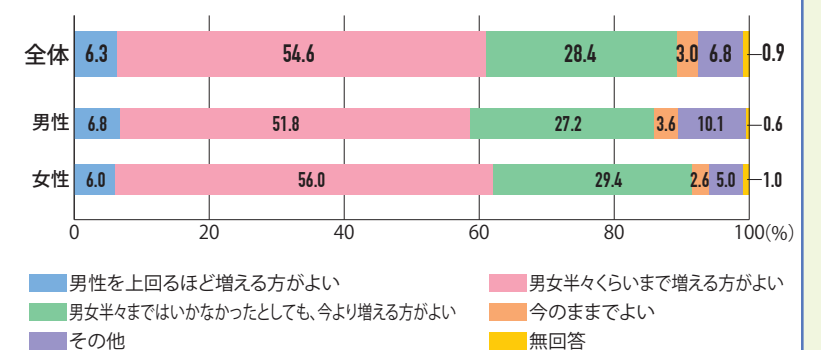
令和3年度までを計画期間とする現在の男女共同参画行動計画について、男女共同参画社会の実現を目指す計画として、ジェンダー平等の視点をより重視した計画になるように見直しを進めています。今回の調査結果を踏まえ、男女共同参画推進区民懇談会のご意見や区民等の意見提出手続きを経た上で、令和4年度の改定に向けた取組を進めていきます。

意思決定過程への参画

Q3 意思決定過程に女性が参画することについて、どのように考えますか

男女共同参画社会を実現していくためには、意思決定過程に対する女性のさらなる参画をあらゆる分野において進めていくことが何よりも重要です。今回の調査で新たに設問を加えたQ3では、「男女半々くらいまで増える方がよい」が最も多く、半数以上を占める結果となりました。

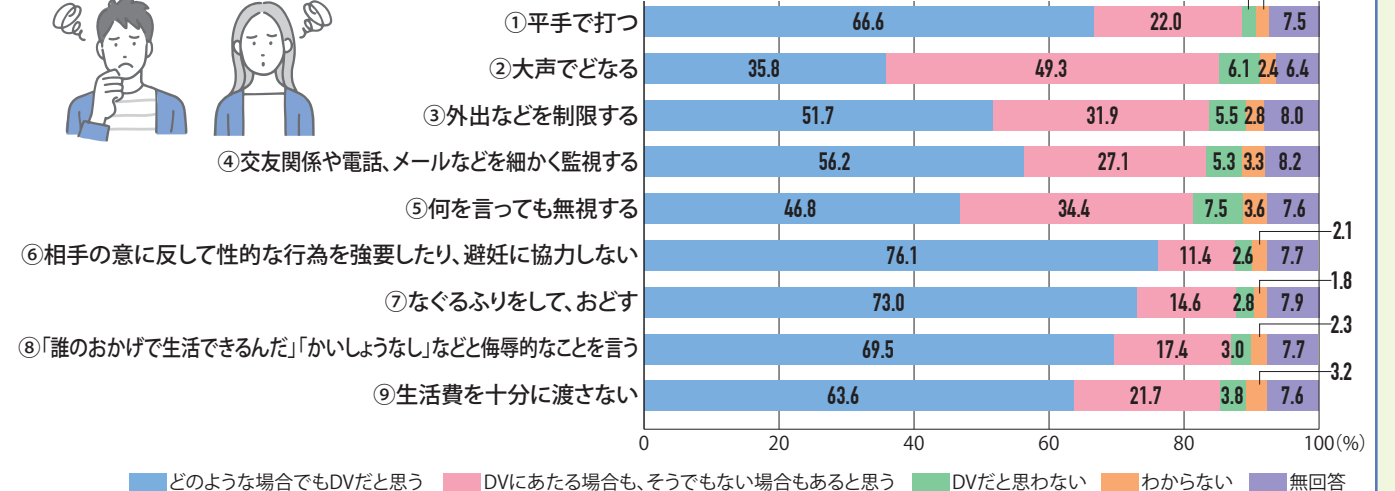
また「男女半々くらいまで」とした回答は、男性が51.8%、女性が56.0%で男女ともに半数以上となっています。



DV(ドメスティック・バイオレンス)

Q4 これらの行為はすべてDVに該当するとされていますが、あなたはどのように思いますか

回答の選択肢はすべてDVに該当するものを示していましたが、こうしたDVの認識について、「どのような場合でもDVだと思う」行為として、「相手の意に反して性的な行為を強要したり、避妊に協力しない」「なぐるふりをして、おどす」が7割を超えました。反対に「大声でどなる」「何を言っても無視する」は5割に満たない結果となりました。

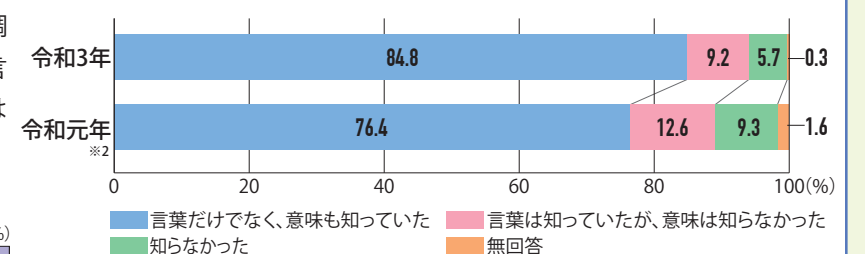


性的マイノリティ ※1

Q5 あなたは「LGBT」という言葉を知っていましたか

LGBTの意味も知っていた人は84.8%と前回調査※2よりも8.4%増加しました。年代別にみると「言葉だけでなく意味も知っていた」と回答した人は男女ともに10代～30代では9割を超えました。

「言葉だけでなく意味も知っていた」と答えた人の割合 (%)		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性	90.8	90.5	86.2	87.4	74.4	71.0		
女性	91.9	93.0	88.1	84.6	82.6	68.2		



※1: 性的マイノリティとは、性的少数者を指し、LGBTなど性のあり方が多様な人を意味します。
LGBTとは「レズビアン(女性の同性愛者)」・「ゲイ(男性の同性愛者)」・「バイセクシュアル(両性愛者)」・「トランスジェンダー(性同一性障害など)」の4つの内容の頭文字をとったものです。
※2: 令和元年度杉並区区政モニターアンケート「性的少数者(性的マイノリティ)について」と比較しています。